

行田市次世代育成支援 (後期計画)の策定

本市では平成17年3月に行田市次世代育成支援行動計画(前期計画)を策定し、次世代育成のための環境整備を図ってきました。このたび、平成22年度から平成26年度までの5年間を計画期間とし、『子どもと親が笑顔で安心してくらせるまち ぎょうだ』を基本理念とする後期計画を策定しました。

後期計画の目標事業量

本市における保育事業の充実のため、次のとおり数値目標を設定しました。今後、本市の児童数や保育ニーズなどを踏まえながら、目標の達成に努めます。

事業名	実績 【平成20年度】	目標 【平成26年度】
通常保育事業	1,257人	1,340人
延長保育事業	5カ所	8カ所
トワイライトステイ事業	2カ所	2カ所
病児・病後児保育事業 (延べ利用日数)	1カ所	2カ所 (476日)
放課後児童健全育成事業 (定員数)	12カ所 (510人)	14カ所 (645人)
地域子育て支援拠点事業 (ひろば型、センター型、児童館型)	8カ所	9カ所
一時預かり事業 (延べ利用日数)	1カ所	1カ所 (298日)
ショートステイ事業	2カ所	2カ所
ファミリー・サポート・センター事業 (延べ利用人数)	1カ所 (768人)	1カ所 (800人)
家庭保育室の運営事業 (1カ月当たりの利用人数)	2カ所 (41人)	2カ所 (50人)

◎後期計画の基本的視点

- 1 子どもの視点を大切にし、社会性の向上や自立を支援します。
- 2 子育てにともなうよろこびが実感できるよう支援します。
- 3 地域で、子育て家庭を支えあえるよう支援します。

保育室があり、放課後児童の健全育成と保護者の就労支援を行っています。

◎学童保育室の定員の拡大(平成21・22年度)
共働き家庭の増加による学童保育室の需用増に対応するため、平成21年度は50人、平成22年度には37人の定員拡大を行い、受け入れ態勢の充実を図っています。

また、平成22年度には小学4年生の児童の受け入れを行うなど、保育ニーズに対応した柔軟な運営に努めています。

◎学童保育室送迎支援事業の実施(平成21年度)
ファミリー・サポート・センターの会員間による送迎支援を活用し、学童保育室の入室待機児童を受け入れ可能な学区外の学童保育室に送り届けるための費用を市が全額負担することにより、入室待機児童の解消と学童保育室未設置学区の児童に対する公平性の保持に努めています。

子ども医療費の拡大

◎子ども医療費の拡大(平成20年度)

平成20年4月から通院については中学校就学前までに拡大し、保護者の経済的負担の軽減を図っています。今後も命を守る施策を推進します。

安心・安全な施設の推進

◎AEDの設置(平成20年度)

万が一に備え、主たる利用者が子どもである児童センターやつどいの広場、学童保育室など17施設にAEDを設置しました。

◎児童センター遊具の更新(平成21年度)

安心して児童センターを利用していただくため、老朽化した遊具の更新を行いました。今後も室内遊具の充実を図り、利用者層の拡大にも取り組みます。



新しくなった児童センターの遊具

◎児童センタートイレなどの改修(平成22年度)

利用者の利便性の向上を図るため、和式から洋式へのトイレ改修や幼児用トイレの整備、スロープの新設などの整備を行います。

▼問い合わせ 子育て支援課子育て支援担当(内線292)